

塚原地区関係歴史年表

参考 新湊市史、新湊市史(近現代)、大島村史
大島町史、小杉町史、大門町史、その他

西 曆	和 曆	で き こ と	史 料
七〇一	大宝 元年	・ 藤原上人(立山開山 佐伯有賴)立山権現を開く	射水郡誌 新湊市史
七四六	天平 十八年	・ 大伴家持が、越中守(国司)となる	
七五四	天平勝宝六年	・ 川口郷戸主照麻呂が、白藤綿一屯を買納する	正倉院文書 新湊市史
八三二	天正 八年	・ 称念寺五代慈俊が、真言宗に帰依する	称念寺由緒書 緯紙
一一八二	寿永 元年	・ 大飢饉となり、餓死者が多くでる	小杉町史
一二三〇	寛喜 二年	・ 雄神川大洪水	
一二三五	延応 元年	・ (東条・河口・會根・八代保が地頭九条家の請所となる)	
一二三八	暦仁 元年	・ 東条・河口・會根・八代保が地頭九条家の請所となり、国免地になる、京着米百石	吾妻鏡 新湊市史 東福寺文書
一二四三	寛元 元年	・ 東条・河口・會根・八代保四箇保が、九条家菩提寺の東福寺領となる	東福寺文書 新湊市史
一二五二	建長 四年	・ この年以降、四箇保という記述が現われないことから、川口保は以後国衙領となったものと考えられる	経俊卿記
一三四一	興國 二年	・ 滝口義弘が、射水郡東条庄の地頭職となる	新湊市史
一三四四	" 五年	・ 桃井直常、越中の守護となる	
一三五〇	正平 五年	・ 桃井直常、南朝に帰順する	小杉町史
一三五五	" 十年	・ 直常、越中勢を率い足利尊氏を攻め京都を攻略する	
一三八〇	天授 六年	・ 島山基國が守護となり 神保氏守護代として放生津に本拠を置く	
一三八九	康応 二年	・ 照応(照祐)、称念寺を(三歩市に)創建する	小杉町史 大島村史
一四二九	永享年間	・ 神保氏が射水・婦負郡の守護代として入部	
一四五〇	享徳年間	・ この頃に蓮如上人に帰依し、真言宗から浄土真宗に改宗し覚正寺となる(それ以前は、高木正八幡を守護神に日光寺と称したといわれる)	覚正寺由来書上 高木山階縁起
一四五六	康正 二年	・ 武田下条、塚原保の内裏造営の段錢五〇〇文を納める	造内裏段錢国役引付
一四六一	寛正 二年	・ 蓮如上人に帰依して、真言宗から浄土真宗になり、覚円寺を創立する	覚円寺由来書
一四六四	" 五年	・ 了誓、推士より転地、塚原村で迎西寺を建立する	迎西寺由緒書
一四七一	文明 三年	・ 蓮如が吉崎に坊舎を構え、浄土真宗の布教を開始する	小杉町史
一四九三	明応 二年	・ 神保長誠、將軍義材を放生津に迎える	新湊市史
一四九八	明応 七年	・ 越中公方義材、越中を立ち越前に赴く	
一五五五	弘治 元年	・ 禅楽寺(宮袋)が創建される	寺院概要個別表
一五六五	永祿 八年	・ 本願寺頭如の北陸一向一揆勢、武田信玄と結び、上杉輝虎に対する	小杉町史
一五六九	" 十二年	・ 輝虎、越中の反上杉勢鎮定のため、神通川以西に出陣する	
一五七六	天正 四年	・ 上杉謙信 能登七尾城を攻略する	
一五八〇	" 年間	・ 川口村の神明社が、伊勢御師中山縫助殿により勧請される	新湊市史
一五八一	" 九年	・ 信長、佐々成政を越中に入封させる	
一五八二	" 十年	・ 佐々成政が三歩市の佐伯有常に伝来の宝物の献納を迫り、称念寺を攻め焼失させる	射水郡志 大島村史 称念寺由緒書
一五八五	" 十三年	・ 秀吉、越中に兵を進め佐々成政討つ ・ 前田利家に川西三郡(神通川より西の婦負・射水・砺波)が与えられる	

一五八五	天正 十三年	・大地震で金屋・岩黒の東山が崩れ、庄川を塞ぎ止めた崩れる(大洪水になり、三巻市を二つに分けた)	
一五九四	文祿 三年	・(迎西寺が塚原村で五〇〇歩拝領、権士より塚原に移住)	迎西寺第々過去帳
一五九六	慶長以前	・この頃三巻市が寺塚原村と沖塚原村に分村する	新湊市史
一六〇四	慶長 九年	・十村、肝煎がおかれる	小杉町史
一六〇七	慶長 十二年	・称念寺に木仏安置が認められる(東条庄内と記人)	小杉町史
一六〇九	" 十四年	・前田利家、高岡城を築く	小杉町史
一六一七	元和 三年	・称念寺が、高岡へ移る	小杉町史
一六二二	" 八年	・迎西寺、居屋敷五〇〇坪を拝領する	越中志徽
一六二二	" 八年	・迎西寺、金屋村へ転住する	越中志徽
一六二四	寛永年間	・川口村の出村が、宮袋村として村建てる	新湊市史
一六二四	寛永年間	・川口村の出村(中會根村の枝村)が、松木村として村建てる	
一六二四	寛永年間	・中會根村の出村(金屋村の枝村)が、朴木村として村建てる	
一六三〇	寛永 七年	・このころ、北陸道の松並木が整備される	小杉町史
一六三八	" 十五年	・神楽川(和田川)治水工事、十一ヶ用水開設	
一六四〇	" 十七年	・北東のくろあいの冷風が吹き、稲が稔らず焼き払う	小杉町史
一六四一	" 十八年	・冷夏のため凶作	
一六四二	" 十九年	・旱魃による凶作、三年連続凶作のため餓死者多く出る	
一六四六	正保 三年	・「越中四郡高付帳」「正保郷帳」がつくられる	
一六五〇	慶安年間	・川口村の枝郷北野新村との記載が見られる	越中四郡高付帳
一六五〇	慶安年間	・大門と放生津の往還道ができる	新湊市史 大島村史
一六五一	" 四年	・加賀藩が改作法の実施を始める(明暦二年)	
一六五二	承応 元年	・雄神川大洪水	
一六五三	" 二年	・(牧野・北野用水が、広上で取水できるようになる)	大門町史
一六五四	" 三年	・(牧野・北野用水が、広上で取水できるようになる)	大門町史
一六五四	" 三年	・牧野(牧野)用水が開かれる	大島町史
一六五六	明暦 二年	・明暦の村御印が下付される	
一六五八	" 四年	・鷹波・射水郡奉行が小杉新町に置かれる	大島村史 大島町史
一六五八	" 四年	・九ヶ用水開かれる	新湊市史
一六六三	寛文 三年	・庄川の洪水により、川口村引高一〇石五斗、宮袋村引高二八石余り	新湊市史
一六六四	" 四年	・川口村の渡舟を銀三七八匁二分にて直す	新湊市史
一六六八	" 八年	・庄川が大洪水により本流となり、これより庄川と称する	
一六六九	" 九年	・大洪水で干保川の流が中田川に移る 射水郡で八〇一〇石の田畑が流される	
一六七〇	" 十年	・寛文の村御印が下付される	
一六八八	元禄 元年	・寺塚原村外八ヶ村 半村の庄となる	大島村史
一六九〇	" 三年	・庄川の洪水により、川口村引高一六〇石、宮袋村引高一二石	新湊市史
一七〇三	" 十三年	・半村庄に属する(塚原地区)	大島村史
一七二四	正徳 四年	・松川除(堤防)の工事完成、これより庄川が現在の川筋となる	大門町史
一七二九	享保 十四年	・川口村入会地で六石余り新開される	新湊市史
一七四八	寛延 元年	・本浄寺(沖塚原)が建立される	寺院概要個別表
一七五五	宝暦 五年	・稲の生實不良と虫害のため大凶作	
一七五六	" 六年	・大風のため凶作	

一七五七	宝曆	七年	・中野村・沖塚原村の者、古銭を掘り出す	大島村史
一七六三	"	十三年	・庄川大洪水	
一七六八	明和	五年	・稲の生育不良と虫害のため大凶作 藩に貸米を乞い射水郡に一万五六〇〇石割符される	
一七七五	安永	四年	・加・越・能三国とも干天と台風で凶作	
一七七七	"	六年	・虫害と風水害で凶作、藩から貸米を受ける	
一七八〇	"	九年	・虫害と風水害で凶作、藩から貸米を受ける	
一七八一	天明	元年	・嶋組四八ヶ村の内に宮袋村・川口村・寺塚原村が含まれる 下条組三二ヶ村の内に沖塚原村・松木村・朴木村が含まれる	大島村史
一七八二	"	二年	・天明の大飢饉が始まる	
一七八三	"	三年	・降雨が続き、病虫害のため六割以上の減収 ・沖塚原村・寺塚原村で田地割が行われる ・大凶作、米価三倍以上になり、草の根、木の皮や芽を食べる	
一七八四	"	四年	・庄川洪水 ・七ヶ・八ヶ用水と九ヶ用水の争いが、「水五分五分」と裁定される	大島町史
一七九二	寛正	四年	・大凶作で疫病が流行する ・寺塚原村、高持百姓三七軒	
一七九三	"	五年	・寺塚原・沖塚原で田地割が行われる	
一八〇一	享和	元年	・石黒信由門人川口村藤右衛門特翰、加州卯辰観音菩薩堂に算額絵馬を奉納する	新湊市史
一八〇三	"	三年	・寺塚原村、五五軒(高百姓 四八軒) ・川口村、五六軒(百姓屋 二二軒) 人口三三三人 ・宮袋村、四〇軒(百姓屋 一七軒) 人口一九七人	
一八〇四	文化	元年	・半村庄、八村垣内三所と記録されている	新湊市史
一八〇五	"	二年	・石黒信由門人川口村藤右衛門特翰 越中放生津八幡宮に算額絵馬を奉納する	新湊市史
一八〇六	"	三年	・七ヶ用水・八ヶ用水の争い、加納村権六に仲裁される	大島町史
一八〇八	"	五年	・石黒信由門人宮袋村高井茂兵衛信房、越中高岡熊野神社に算額絵馬を奉納する	新湊市史
一八一〇	"	七年	・鷹誉、寺塚原に蓮徳寺を建立する	寺院概要個別表
一八一七	"	十四年	・川口村、六二軒 三三七人 ・宮袋村、四三軒 二三五人	
一八一九	文政	二年	・十村断獄で、十村三十一名入牢。下条組の十村が年死する	小杉町史
一八二〇	"	三年	・十村制度廃止し、年寄と称し姓を名乗る	加越能近世史研究必携
一八二三	"	五年	・虫害・風水害で凶作	
一八二四	七年〜十三年		・連続七年間、虫害・風水害で凶作	
一八三三	天保	四年	・沖塚原村、戸数 八六軒 松木村、戸数 五七軒 朴木村、戸数 二三軒 ・春の早魃と夏の冷雨で大凶作、射水郡全体で二万一〇〇石が用持される。米価が一石五匁文が九貫〜十二・三匁文に高騰する	
一八三五	"	六年	・凶作、射水郡内の貸米六八〇〇石	
一八三六	"	七年	・豪雨と強風で大凶作、多数の餓死者がでる ・翌八年には一石当りの米価が二〇匁文になる	
一八三八	"	九年	・針山大工善六、松木村久三郎前の橋を作る ・凶作であったが、藩が貸米を認めず、翌春には乞食が多く	新湊市史

一八三九	天保	十年	路頭にさまよった		
一八四二	"	十三年	・十村制度が復活する		加越能近世史研究必携
一八四三	"	十四年	・瑞應寺一八代国常和尚、閑雲と称し谷昌寺に隠居する		新湊市史
一八五二	嘉永	五年	・寺塚原・沖塚原で田地割が行われる		
			・庄川・和田川洪水		
一八五七	安政	四年	・下東条組(折橋基助裁許)となる(寺塚原村・沖塚原村・松木村・朴木村・川口村・宮袋村……)		大島村史
一八五八	"	五年	・半盛斎玄茂(中村)が前句集「俳諧狐の茶袋」第二編を刊行する(高岡の住人か)		大門町史
一八五九	"	六年	・大地震で大きな被害がでる		
			・閑雲が國家安穩祈願法要の費用の下付を願いでる		谷昌寺文書
			・閑雲没する		新湊市史 射水郡誌
一八六二	文久	二年	・藩内にコレラが流行する		
一八六八	慶応	四年	・下条村弥四郎組に沖塚原村・松木村・朴木村が含まれる		大島村史
	(明治元年)		・北野村伊左衛門組に寺塚原村・川口村・宮袋村が含まれる		
一八六九	明治	二年	・沖塚原村、戸数 六三軒と記載されている		
一八七二	"	四年	・七月十一日 金沢県射水郡となる		
			・十一月二十日 七尾県射水郡となる		
一八七三	"	五年	・九月二十七日 新川県(射水郡が新川県に入る)		
一八七三	"	六年	・庄川洪水、堤を破る		
一八七四	"	七年	・新川県射水郡第一五大区二小区 沖塚原村外五ヶ村		大島村史
			・沖塚原の福戸社が、神明社に合祀される		
一八七五	"	八年	・寺塚原村 製薬人二 売り子二		竹橋家文書
			沖塚原村 製薬人三 売り子三		
			松木村 製薬人一 売り子一と記されている		
一八七六	"	九年	・四月十八日 元の加賀藩・富山藩・大聖寺藩が石川県になる		
			・蓬源小学校が設立され(沖塚原村・寺塚原村)、堀正齋宅が教場になる		浦上家文書
一八七七	"	十年	・就徳小学校が設立される(川口村・宮袋村)		塚原村沿革史
			・有源小学校が設立(松木村・朴木村)され、高原葦右衛門宅が教場となる		大島村史
一八七八	"	十二年	・石川県大四区射水郡小二区 朴木村		
			石川県大四区射水郡小三区 寺塚原村・沖塚原村		
			石川県大四区射水郡小四区 川口村・(宮袋村・松木村)		
一八七九	"	十二年	・コレラ流行する		大門町史
一八八三	"	十六年	・五月九日 石川県より分離して富山県となる		
			・富山県射水郡北野村戸長役場 寺塚原村・沖塚原村・川口村・宮袋村・松木村・朴木村		大島村史
一八八四	"	十七年	・寺塚原村、七八戸、三五九人、九七町五反六畝二三歩		射水郡治一覽表
			・沖塚原村、九三戸、四五四人、九九町三反八畝二五歩		
			・宮袋村(二ヶ村)、一四六戸、七〇七人、一六二町九反七畝一九歩		
			・松木村、七二戸、三六三人、八九町六反五畝、一七歩		
			・東朴木村、三六戸、一八九人、四七町二反三畝二六歩		
一八八五	"	十八年	・庄川洪水、川口と北野で堤防が決壊する		
			・排水問題で朴木を松木・沖塚原・寺塚原が富山裁判所へ提訴する。(朴木事件)		浦上家文書
			・提訴に付いて富山裁判所の調停がでる		沖塚原自治会文書
			・三十九番小学校松木朴木分校(蓬源小学校)が、高原葦右		浦上家文書

一八八六	明治	十九年	・ 衛門宅より高信半助宅に移る	浦上家文書
一八八五	"	二十年	・ 富山裁判所の調停を不服として、朴木が大阪控訴院へ上訴した。調停がだされ、執行が行われる	塚原村沿革史
一八八八	"	二十一年	・ 逢源・就徳・有源小学校を併せ有源(尋常)小学校とし、	
一八八九	"	二十二年	・ 沖塚原簡易小学校をつくり、武田与平・竹林九平宅を分借する	村田家文書
一八八九	"	二十二年	・ 藪波浄寛が朴木村で、進徳教会を開く	
"	"	二十二年	・ 寺塚原村・沖塚原村・松木村・朴木村・川口村・宮袋村により塚原村が誕生し、寺塚原に村役場を設ける。初代村長浦上和右衛門、助役塚本謙三	塚原村沿革史
"	"	二十三年	・ 有源小学校を盛徳小学校と改称し、松木村高原庄左衛門宅の敷部分を借りて教場とする	塚原村沿革史
一八九二	"	二十四年	・ 庄川洪水	
一八九三	"	二十六年	・ 盛徳小学校の校舎が現在地に建築される	塚原村沿革史
一八九四	"	二十七年	・ 日清戦争が起る	
一八九五	"	二十八年	・ 朴木で蘭草栽培始まる	村田家文書
一八九五	"	二十八年	・ 塚原尋常小学校となる	
一八九六	"	二十九年	・ 日清講和条約(下関条約)が結ばれる	
一八九六	"	二十九年	・ 射水郡から氷見郡が分離する	
一九九七	"	三十年	・ 舟木直次郎が蘭草を小松より買入れ栽培法を研究する	射水郡誌
一九九八	"	三十一年	・ 村田和左衛門が織機で、花筵を織り始める	村田家文書
一九九八	"	三十一年	・ 村田和左衛門が富山県第一回農会品評会に蘭草で三等賞を受ける	村田家文書
一八九九	"	三十二年	・ 庄川が氾濫し洪水になる	大門町史
一九〇〇	"	三十三年	・ 庄川の改修工事が始まる	庄川
一九〇〇	"	三十三年	・ 庄川が出水し、浅井村で堤防決壊	大門町史
一九〇〇	"	三十三年	・ 村田和左衛門が郡農会の品評会で、蘭草・花筵で三等賞を受ける	村田家文書
一九〇三	"	三十六年	・ 塚原村役場を蓮徳寺に移す	塚原村沿革史
一九〇四	"	三十七年	・ 日露戦争が起る	
一九〇五	"	三十八年	・ 日露講和条約(ポーツマス条約)が結ばれる	
一九〇七	"	四十年	・ 朴木村で耕地整理が行われる(五五町歩)	射水郡誌
一九〇八	"	四十一年	・ 寺塚原村に県土木事務所の私下を受け、村役場を建築する	塚原村沿革史
一九〇九	"	四十二年	・ 巡査駐在所が建設される	
一九二一	"	四十四年	・ 村内の政争激しく、県より村長臨時代理者として桐谷鉄太郎が派遣される	
一九二二	"	四十五年	・ 庄川改修工事・伏木築港工事竣工、庄川と小矢部川が分離される(大正元年)	伏木港史
一九二二	大正	二年	・ 富山―直江津間の鉄道が開通し、北陸本線が全通する	
一九二六	"	四年	・ 「狐の茶袋」第六編を三樹亭漱雲が編纂する	新湊市史(近現代)
一九二八	"	六年	・ ワイル氏瘧が流行する	富山日報
一九二二	"	九年	・ 川口の八幡社と神明社が合祀され、諏訪本神社となる	
一九二四	"	十二年	・ 塚原村信用購買販売組合ができる。初代会長浦上和右衛門 ・ 塚原村農会ができる。会長永田小一郎	富山県農会史
一九二七	昭和	二年	・ 庄川河川敷が、トラクターにより開墾され、畑地になる	富山日報
一九二八	"	三年	・ 塚原村消防組が発足する。組頭浦上和右衛門	塚原村沿革史
一九二八	"	三年	・ 寺塚原の諏訪社・日枝社・栗島社が合祀され、寺塚原神社になる	
一九三二	"	六年	・ 満州事変が起る	

一九三三	昭和	七年	・上海事変が起る	
一九三四	"	九年	・庄川大洪水が起こり、冠水田、浸水家屋が多く出る	
一九三六	"	十一年	・北野・牧野用水を合流させ、和田川を横切る所を掛樋からサイフォンに直す。以後、北牧用水と称する	大島町史・大門町史
一九三七	"	十二年	・日中戦争が起る	
一九三九	"	十四年	・道路新築・大門線が改修される	
一九四一	"	十六年	・塚原小学校の校庭に忠魂碑を建設する	塚原村沿革史
一九四二	"	十六年	・太平洋戦争が始まる	
一九四五	"	二十年	・米機の富山空襲の際、誤爆により川口で三戸焼失する	
一九四六	"	二十年	・太平洋戦争終わる	
一九四六	"	二十一年	・塚原村在籍戸数四七三戸、在籍人口二四三六八	
一九四六	"	二十一年	・農地改革実施のため農地委員会が設置される	
一九五〇	"	二十五年	・シエーン台風により、稲の倒伏、家屋に大被害を受ける	
一九五三	"	二十八年	・塚原村議事が高岡市編入を決議(賛成一、退場一)するが、高岡市から再考を促される	北日本新聞
一九五三	"	二十八年	・塚原村(村議会賛成一〇、欠席二)が新湊市に編入合併する	新湊市史(近現代)
一九五五	"	三十年	・塚原村に合併反対運動起り、合併後は塚原地区分離運動になる	北日本新聞
一九五五	"	三十年	・新湊からの分離派の住民が市役所に座り込み、分離を要求する	
一九五七	"	三十二年	・塚原地区分離問題に関連して、杉本市長職を辞する	北日本新聞
一九五七	"	三十二年	・七ヶ用水の和田川横断をサイフォン式にする	
一九五七	"	三十二年	・塚原分離派が仮教育所ヶ所を設け、同派の児童を教育する	北日本新聞
一九五九	"	三十四年	・塚原地区の分離問題が円満に解決し、新湊市と分離期成同盟会の間で覚書が交換される	
一九六一	"	三十六年	・高山新港の起工式が行われる	高山新港史
一九六二	"	三十七年	・塚原地区に上水道が配管される	
一九六三	"	三十八年	・「狐の茶袋」第十編を仁盛堂一樹が編纂する	
一九六三	"	三十八年	・北陸が大豪雪に見舞われる(三八豪雪)	
一九六四	"	三十九年	・工場誘致第一号の高木製作所が川口に完成、操業を始める	新湊市史(近現代)
一九六四	"	三十九年	・国営射水平野農業水利事業が着工される	
一九六五	"	四十年	・西部排水機場 西部主幹線排水路工事始まる	
一九六五	"	四十年	・沖塚原の白山社が、神明社に合祀される	
一九六六	"	四十二年	・寺塚原に市営火葬場が出来る	
一九六八	"	四十三年	・塚原地区が学区変更により大門中学から新湊南部中学に通学するようになる	
一九六九	"	四十四年	・県営灌排水事業が九号排水路より着工する	
一九六九	"	四十四年	・塚原土地改良区で圃場整理と末端用排水路の整備始まる	
一九七〇	"	四十五年	・塚原農業協同組合が新湊農協に合併し、塚原支所となる	
一九七〇	"	四十五年	・この年より米の生産調整が始まり、水田の転作作物として大麦・大豆等が栽培されるようになる。	
一九七一	"	四十六年	・国道八号の高新大橋が竣工し、江尻一鏡宮が開運する	
一九七一	"	四十六年	・塚原土地改良区で圃場整理と末端用排水路の整備工事終わる	
一九七二	"	四十七年	・川口・宮袋のえんが県の産地指定を受ける	
一九七六	"	五十一年	・朴木へ新湊病院が移転新築される	
一九七六	"	五十一年	・国営農業水利事業が完成する	